

JAグループ広島 営農通信

2019年
秋号



担い手アグリサミットにおける
農業用ドローン実演(平成30年度)

 JAグループ広島

JA全農ひろしまホームページ



<https://www.jazhr.jp>

●お問い合わせは下記までお願いします

 JA全農ひろしま

営農支援室 / 片島: TEL.082-846-4706 改革推進課 / 原田: TEL.082-846-4701

◆トピックス

- ①資源循環型ブランド「3-R(さんあーる)」
- ②JAグループ担い手アグリサミット
- ③「スマート農業」の普及拡大に向けた取り組みについて

◆園芸情報

- ①JA施肥マスター監修の新商品「賀茂ベジ」シリーズ登場!
- ②青果物情勢

◆米穀情報

- ①生産者と消費者を結ぶフリーペーパー「ムスポ」について
- ②業務用実需者との複数年契約栽培の取り組みについて

◆肥料・農薬情報

- ・ご存知ですか? 水稻の収量・品質向上対策

◆農機情報

- ①夏期農業機械展示会について
- ②JAグループ共同購入トラクタ(第2弾)の取り組みについて
- ③農作業安全について



資源循環型ブランド「3-R」^{さんあーる}



● 3-R(さんあーる)とは

- 広島県産の農畜産物やその加工品を、耕畜連携の取り組みを要件として全農ひろしまが認定するブランドです。
- 資源循環による環境保全と、持続可能な農業の推進を目的としています。
- 畜産業で生まれた堆肥を農作物を栽培するための肥料として再利用(リサイクリング)する「資源(リソース)循環型農業」から生産された農畜産物などをブランド対象として販売します。
- この取り組みを繰り返す(リピート)ことで、地域の環境保全につなげていきます。
- 「3-R」は、2030年に向けて世界が合意したSDGsの実現にもつながる取り組みです。



「SDGs(エスディージーズ)」とは

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

● 「3-R」ブランドの販売開始

- 令和元年8月31日、県本部直営の産直市「とれたて元気市 広島店」にて、「3-R」ブランドの販売を開始しました。
- JA全農が運営する通販サイト「JAタウン 広島とれたて元気市」でも取扱いを開始しています。
<https://www.ja-town.com/shop/c/6301/>



● 「3-R」ブランド商品

- 畜産たい肥を利用した農作物や飼料米・飼料稲で生産された畜産物、それらを原料にした加工品を「3-R」ブランドとして認定します。(その他品目毎に要件あり)



【耕畜連携 資源循環米】
おおあさ こしひかり



【耕畜連携(資源) 循環野菜】



【耕畜連携】
広島こめたまご



【耕畜連携】
広島和牛



【耕畜連携】
お米(マイ)ポーク



【耕畜連携】
広島のハンバーグ

JAグループ担い手アグリサミット



スマート農業技術実演会



個別説明ブース



農機展示・実演



セミナー



ICT専用ブース

JAグループでは「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」を掲げ、自己改革に継続して取り組んでいます。これからの日本農業を担う担い手に対する様々な支援を提案し、実践していくことが使命と考えています。

今後の農業を支える担い手の皆さまをお招きし、営農に役立つ様々な最新情報や最新技術を展示・提供し、日頃の疑問や課題を解決していただく機会として、「JAグループ担い手アグリサミット」を開催します。

【日程】

令和元年 10月30日(水)・10月31日(木)
両日とも 9:30~16:00

【場所】

JA西日本営農技術センター
(東広島市河内町入野11631-13)

【主催】

JA全農(中四国営農資材事業所・広島県本部)

【内容】

研修会・実演会・農業関連資材等展示・各種相談会
(写真は昨年度のものです。内容は変更になる場合があります)

ご来場をご希望される方は、お近くのJAまでお問い合わせください。

★事前にお申込みが必要となります。★

「スマート農業」の普及拡大に向けた取り組み

①農家数の減少や高齢化に伴い、担い手への農地集積が進む一方、拡大する農地の管理が重要となっています。また、農業の現場では、依然として人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多く、省力化、人手の確保、負担の軽減が課題となっています。

②JA全農ひろしまは、これらの課題の解決手法の一つとして、「スマート農業」の導入と普及拡大に向けた取り組みを進めていく考えです。

- 生産基盤の維持
 - ・拡大する圃場の適正管理
 - ・法人等の受託面積拡大による耕作放棄地の防止
 - ・後継者への事業承継
- 農業生産に係るトータルコストの低減
 - ・適正な栽培管理による収量、品質向上
 - ・効率的な労務管理による労働コスト削減
 - ・手取り最大化モデルの見える化、平準化



水田の栽培環境(水位・水温など)を計測しスマートフォン等で確認できるセンサー

拡大する農地の見える化と様々な栽培情報を一元化できる農地管理システム「Z-GIS」

「稲作プロジェクト」での実証と人材育成

①「スマート農業」の普及に向け、技術の総合的な検証を、業務用の多収穫米で実証するため、次のような目的で「稲作プロジェクト」を実施しています。

- スマート農機等を活用した作業の省力と労働力(非熟練)支援実証
- 農業ICT利用による管理作業の省力化実証
- 販売事業との連携(業務用パッケージ・加工用米)

②JA全農ひろしまは、令和元年8月、報道機関・生産者・JA営農指導員ら約100名を対象に新技術の実演会を実施しました。(右:記事、下:写真2枚) 今後は、モデル経営体(8地区39経営体)や実験圃場でノウハウを蓄積し、生産現場における省力化や生産技術の可視化を図り、持続可能な広島県農業の実現に向け、取り組みを強化する方針です。



全自動飛行ドローンを用いた水稲のセンシング(生育診断)



水稲水口自動水門の説明を行う県本部職員

全農ひろしま 複数技術組み合わせ

米・キャベツ・ダイコン

三原市に初の直営農場

出所:日本農業新聞 令和元年8月9日
※この記事は日本農業新聞に申請手続きを行い許諾を得て掲載。

園芸情報 園芸情勢

JA全農ひろしまの取り組み

JA施肥マスター監修の栽培による新商品「賀茂ベジ」シリーズ登場!



▲「賀茂ベジ」シリーズのパッケージ



▲生産者に栽培指導を行うJA広島中央営農指導員(左から2番目)

JA全農ひろしまは、JA広島中央と連携し、タキイ種苗が開発した「ファイトリッチシリーズ」の品目をJA広島中央管内にて作付け、「賀茂ベジ」シリーズとして販売を開始しました。

「賀茂ベジ」は土づくりのスペシャリストでもある「JA施肥マスター」の指導のもと、最適な条件で野菜が栽培されています。



三原市大和町の田坂信太郎さん(50)は、JAの指導により7aの圃場で「賀茂ベジ」対象商品である「オクラ」を栽培しており、8月の初旬から9月初旬にかけて出荷を行いました。田坂さんの作るオクラは、ヘルシエという品種でオクラ特有の粘りが特に強く、かめばかむほどもちもちとした粘りが増すことが特徴です。

ヘルシエは、パステルグリーンのやわらかい丸莢(まるさや)で、見栄えも良いオクラです。



田坂さん(写真右)からの一言メッセージ

「賀茂ベジ」を作ることで皆様の健康な生活に少しでも貢献できたら嬉しいです!たくさん食べて元気になる野菜を作りたいです!

「賀茂ベジ」シリーズの野菜は市場に出荷され、県内の量販店にて販売されています。レッドリーフが5月に、水菜が6月に出荷されました。今後は11月から12月にかけて白菜やほうれん草が出荷される見込みです。

JA全農ひろしま園芸課竹林職員は、「JA広島中央管内は肥沃な土壌と高い生産技術を持っているので、今後はオクラだけでなく、様々な品目を賀茂ベジとして販売していきたい」と意気込んでいます。

JA全農ひろしまは、今後も県内産野菜の拡大に向けた活動を進めていきます。

園芸情報 園芸情勢 (販売経過及び情勢)

青果物 ● 令和元年6～8月の販売経過

2019年(令和元年)6～8月の日本の天候は、西日本を中心にたびたび大雨となり、東日本太平洋側と西日本は、降水量が多く、日照時間は少なくなりました。沖縄・奄美も降水量がかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。北・東日本と沖縄・奄美は気温が高くなりました。

そのような中、JA全農ひろしまの青果物の取扱状況は、令和元年8月末累計の卸売市場仕向けについては、出荷重量6,217t(前年比104%)、販売金額1,886百万円(同90%)となりました。また、単価については303円(同87%)となり、葉物野菜だけでなく、トマト、きゅうりなどの果菜類も市況の低迷が続いています。

■全農広島県本部の販売状況(令和元年4月～令和元年8月累計)

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	6,217	107%	1,886,160	90%	303	87%
アスパラガス	260	102%	297,978	96%	810	97%
青ねぎ	846	103%	404,240	89%	728	89%
トマト	1,726	97%	447,724	80%	201	95%
ほうれんそう	306	106%	113,580	103%	893	83%
小松菜	476	106%	106,988	98%	224	93%
きゅうり	463	102%	90,693	86%	195	88%
わけぎ	71	68%	50,787	86%	719	128%
豌豆	37	116%	31,822	95%	863	81%
青梗菜	82	126%	24,068	127%	292	103%
その他葉茎菜類	85	198%	24,198	130%	285	56%
きぬさや豌豆	5	71%	6,883	64%	1,389	87%
レタス	24	83%	3,916	93%	161	110%
その他根菜類	17	100%	5,861	89%	343	87%
えのき茸	27	129%	5,764	133%	213	105%
たまねぎ	61	161%	5,579	158%	91	98%
キャベツ	470	146%	28,457	143%	60	95%
ジャンボピーマン	91	140%	24,357	122%	267	95%
生しいたけ	2	200%	1,750	191%	893	96%
その他	5,032	106%	186,133	82%	370	78%

※全農広島県本部の主要品目別市場出荷実績

◆8月単月の概況

【数量】※()は前年度比。

- キャベツ(333%)、こまつな(124%)、ほうれんそう(122%)は、前年度の単月を大きく上回る出荷数量でした。
- 葉物野菜を中心に、春先から6月にかけて前進出荷で推移し、6月に降水量があまり多くなかったことなどにより、出荷量が増えています。ただし、青ねぎについては、梅雨明けからの高温により、8月は出荷が減少しました。
- キャベツ、こまつな、ほうれんそうなどの葉物野菜は5～6月にかけて天候が安定したこと、一部地域では豪雨災害等の影響もありましたが、昨年度と比較すると、今年度は大きな天候被害もなかったため、葉物野菜を中心に前年を大きく上回りました。
- 8月単月の総出荷量は1,579tとなり、前年比103%と昨年を上回っていますが、8月後半から9月上旬にかけて秋雨前線の影響などにより、出荷量は減少する見込みです。

【金額・単価】

- 8月単月で全体の平均単価は300円/kgとなり、前月240円/kgよりも上がっています。
- 背景には梅雨明け後8月にかけて、降水量が少なく、安定した高温が続き、葉物野菜を中心に出荷量が減少していることにより、一部の品目で市況が回復していますが、トマト(62%)やキュウリ(67%)などの果菜類は8月に入り、他県産の出荷も潤沢にあり、昨年度を大きく下回る単価となっています。
- 8月単月の出荷量は前年と比較し、40トン増加しました。キャベツやこまつな、ほうれんそうなどの葉物類が増加し、単月の販売金額は4億7千4百万円(前年比82%)となりました。

◆9月の見通し

(1) 入荷量の見通し

9月の主要野菜(15品目)の入荷量は、平年を下回る水準と見込まれます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、なし。

「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、にんじん、キャベツ、ほうれんそう、青ねぎ、なす、ばれいしょ、たまねぎの8品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、はくさい、白ねぎ、レタス、きゅうり、トマト、ピーマン、さといもの7品目です。

(2) 卸売価格の見通し

9月の主要野菜(15品目)の卸売価格は、平年を下回る水準と見込まれます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、白ねぎ、きゅうりの2品目です。

「平年を下回る」と見込まれるのは、にんじん、はくさい、キャベツ、レタス、トマト、ピーマン、ばれいしょ、さといも、たまねぎの9品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、だいこん、ほうれんそう、青ねぎ、なすの4品目です。

〈お問合せ先〉園芸課／^{かんた}神田:TEL.082-846-4708

■ 品目別の入荷量、卸売価格の見通しは以下の通りです。

品目	9月の入荷量		9月の卸売価格		(参考) 前年9月の主産県シェア (%)
	前年比較	(参考) 前年比較	前年比較	(参考) 前月比較	
だいこん	▼	=	=	=	北海道(65) 広島(16) 青森(10)
にんじん	▼	↗	▼	▼	北海道(96)
はくさい	=	=	▼	↗	長野(81) 熊本(11) 北海道(6)
キャベツ	▼	=	▼	=	群馬(71) 長野(13) 熊本(10)
ほうれんそう	▼	▼	=	=	広島(93)
青ねぎ	▼	↗	=	=	広島(48) 北海道(18) 愛媛(10) 大分(8)
白ねぎ	=	=	↗	↗	鳥取(46) 北海道(33) 輸入(10) 長野(6)
レタス	=	↗	▼	↗	長野(90) 北海道(4) 群馬(4)
きゅうり	=	=	↗	↗	宮崎(30) 熊本(25) 佐賀(18) 広島(7)
なす	▼	=	=	↗	広島(30) 熊本(15) 佐賀(15) 島根(13)
トマト(ミニトマトを除く)	=	=	▼	↗	広島(54) 熊本(20) 島根(11) 鳥取(8)
ピーマン	=	=	▼	=	大分(51) 輸入(11) 宮崎(10) 熊本(9)
ばれいしょ	▼	↗	▼	▼	北海道(100)
さといも	=	=	▼	▼	愛媛(57) 宮崎(35)
たまねぎ	▼	=	▼	▼	北海道(97)
品目計	▼	=	▼	=	

注:「前年」とは、直近5か年の平均値です。

※この資料の内容は令和元年8月31日現在で見込んだものであり、気象条件等により変動があり得ます。

※主要野菜の入荷量及び卸売価格の見通しのコメント及びグラフは令和元年8月31日中四国農政局園芸特産課の発表内容によります。

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：トン

品目	6月上旬		6月中旬		6月下旬		7月上旬		7月中旬		7月下旬		8月上旬		8月中旬	
	入荷量	前年比														
だいこん	228	73%	236	101%	289	97%	291	92%	288	100%	223	72%	289	107%	240	106%
にんじん	223	98%	222	89%	208	98%	158	90%	150	91%	137	76%	152	73%	107	57%
はくさい	208	114%	175	86%	163	92%	108	67%	177	118%	172	111%	204	130%	151	95%
キャベツ	635	108%	597	108%	510	91%	565	100%	604	114%	472	86%	502	100%	388	79%
ほうれんそう	53	125%	50	121%	43	110%	27	89%	29	149%	19	98%	16	106%	9	80%
青ねぎ	44	86%	44	91%	42	88%	44	103%	48	104%	38	82%	42	92%	35	81%
白ねぎ	22	88%	25	91%	23	87%	20	86%	26	96%	21	71%	30	119%	14	58%
レタス	284	129%	238	97%	231	93%	228	103%	221	103%	192	79%	253	105%	190	77%
きゅうり	314	115%	248	104%	214	101%	148	100%	148	105%	131	70%	171	94%	145	88%
なす	85	71%	121	96%	132	105%	137	104%	104	90%	77	65%	99	92%	72	69%
トマト(ミニトマトを除く)	210	272%	220	262%	153	87%	136	87%	139	122%	115	73%	145	93%	142	100%
ミニトマト	76	134%	63	123%	55	107%	50	131%	49	136%	39	98%	47	121%	36	101%
ピーマン	75	97%	64	82%	56	89%	60	105%	54	93%	46	78%	51	93%	40	92%
ばれいしょ	339	110%	253	85%	182	80%	98	65%	98	80%	84	57%	140	88%	123	72%
さといも	5	81%	3	53%	4	70%	4	83%	5	85%	4	57%	5	69%	3	39%
たまねぎ	317	107%	261	95%	238	93%	239	102%	359	140%	266	100%	289	123%	224	84%

(参考) 広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：円/kg

品目	6月上旬		6月中旬		6月下旬		7月上旬		7月中旬		7月下旬		8月上旬		8月中旬	
	卸売価格	前年比	卸売価格	前年比												
だいこん	69	116%	89	99%	75	87%	65	83%	75	82%	78	87%	85	90%	120	96%
にんじん	70	61%	77	65%	80	73%	104	98%	128	90%	158	93%	127	87%	102	81%
はくさい	52	62%	75	80%	75	84%	62	83%	61	87%	96	116%	88	83%	81	67%
キャベツ	83	107%	80	96%	73	82%	67	91%	59	85%	69	75%	98	107%	130	119%
ほうれんそう	358	75%	417	76%	458	85%	529	89%	606	79%	600	82%	817	106%	1,078	99%
青ねぎ	441	106%	463	105%	451	103%	438	95%	438	79%	464	79%	588	94%	730	111%
白ねぎ	409	96%	385	93%	369	95%	366	98%	383	93%	371	109%	332	100%	376	86%
レタス	110	70%	121	80%	113	80%	105	71%	130	76%	183	98%	167	100%	258	134%
きゅうり	187	99%	216	102%	196	93%	221	97%	309	96%	269	108%	224	89%	269	74%
なす	351	104%	363	111%	290	93%	265	97%	305	104%	343	117%	318	113%	296	103%
トマト(ミニトマトを除く)	232	90%	239	85%	246	81%	278	100%	274	98%	274	107%	238	95%	193	70%
ミニトマト	312	68%	378	83%	509	103%	466	85%	479	74%	600	101%	517	89%	513	86%
ピーマン	321	117%	365	122%	409	114%	397	106%	378	102%	400	119%	348	108%	396	117%
ばれいしょ	124	73%	138	83%	167	101%	189	100%	216	120%	207	134%	169	118%	180	132%
さといも	448	95%	481	112%	579	124%	555	121%	576	139%	521	144%	526	146%	474	118%
たまねぎ	76	63%	76	68%	80	67%	87	66%	100	75%	94	73%	93	66%	90	68%

資料：「広島市中央卸売市場日報」

注：前年比70%以下及び130%以上の数値に色を付けています。

米穀情報

米穀情報

① 生産者と消費者を結ぶフリーペーパー「ムスボ」について



- JA全農ひろしまでは、「広島のお米」に関する様々な情報を発信するフリーペーパー「ムスボ」を発行しています。1号あたりの発行部数は10,000部で、年に3回程度発行しています。
- メインとなる内容は産地の情報発信です。広島県内の産地を巡り、生産者の取り組みや懸ける思い、こだわりなどを紹介しています。
- 広島県内の「結び米」の取り組みを紹介したり、季節に応じたレシピを紹介したりと役立つ情報が満載です。
- 「ムスボ」はJA全農ひろしまの「とれたて元気市」をはじめとした県内のJA産直市や、JA全農ひろしまが参加する食のイベントなどで配布し、消費者にひろしま米の魅力をPRしています。また、ひろしま米の消費拡大につなげるため、商談会や販促イベントでも活用しています。
- なお、「ムスボ」はJA全農ひろしまのホームページ上でも閲覧することができますので、ぜひ、ご覧ください。

■ JA全農ひろしまホームページ <https://www.jazhr.jp/>

※トップページから、「広島のお米」⇒「広島のお米」とお進みください。

JA全農ひろしまは、今後も広島県内のお米や産地の魅力を発信していきます。

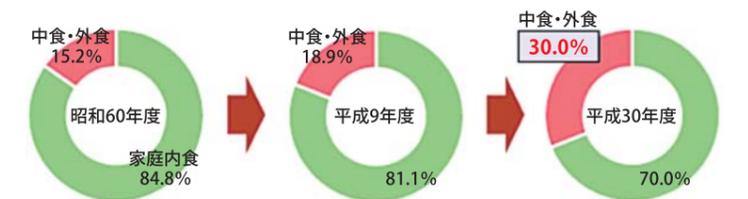
② 業務用実需者との複数年契約栽培の取り組みについて（“固定価格”＆“多収実現”）

米の消費量は人口減少、少子高齢化等の影響により減少傾向にありますが、米の消費における中食・外食の占める割合は年々拡大しています。

JAグループ広島では、近年需要が高まっている中食・外食実需者との複数年契約栽培に取り組んでいます。

※中食（なかしょく）とは、総菜や弁当などの調理済み食品を自宅で食べることを指します。

【米の消費における家庭内及び中食・外食の占める割合(全国)】



資料：農林水産省「米の1人1ヶ月当たり消費量」及び米穀機構「米の消費動向調査」

出典：米をめぐる関係資料（令和元年7月）（農林水産省）

http://www.maff.go.jp/j/seisan/kikaku/kome_siryou.html

【本取り組みの概要】

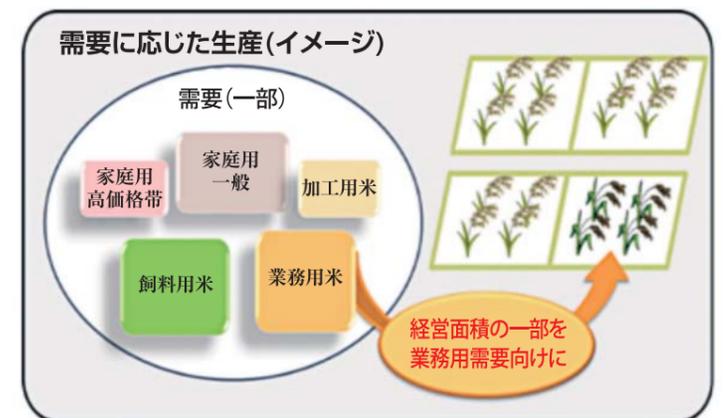
- 「安定販売先」を事前に確保し「固定価格で複数年契約（出荷確約契約）」する取り組みです。複数年固定価格契約であるため販売収入が相場に左右されません。また、作付け前段階で販売収入の見込みを立てやすくなります。

- 需要に応じ、品種や取り組みのバリエーションをもって作付けすることで、農業経営の安定につながる取り組みです。経営面積の一部において「業務用需要向けの多収栽培」を推奨しています。

近年の主食用米相場からすると、契約単価自体は安価ですが、多収により面積あたりの収入向上を目指すことで、中長期的に安定した収入確保を実現できます。

- 多収を実現するための栽培技術指導や品種提案等について、JAグループ広島をはじめ関係機関の協力のもと進めてまいります。

- JAに出荷いただいた玄米は、JA全農ひろしまパールライス工場（精米HACCP認定取得）で精米・袋詰めを行います。納品・販売先は全国大手の業務用実需者が運営している広島県内を中心とした店舗となります。（例：すき家、はま寿司、ココス他）



業務用米の需要が拡大しているなか、中食・外食実需者との複数年契約栽培の拡大に向け、JAグループ広島として生産から販売まで関係者が連携し、積極的に取り組んでまいります。

〈お問合せ先〉米穀総合課／塚本：TEL.082-431-5450
米穀販売課／山口：TEL.082-431-3000

担い手情報 肥料・農薬情報

1. ご存知ですか? 水稻の収量・品質向上対策

① 稲刈後の対策について

水稻の収量向上には稲刈後の①土づくり肥料の散布、②稲わら腐熟促進、③雑草軽減対策等が必要となります。今回はこれらの対策についてご紹介いたしますので、次年産に向けた検討をよろしくお願ひします。

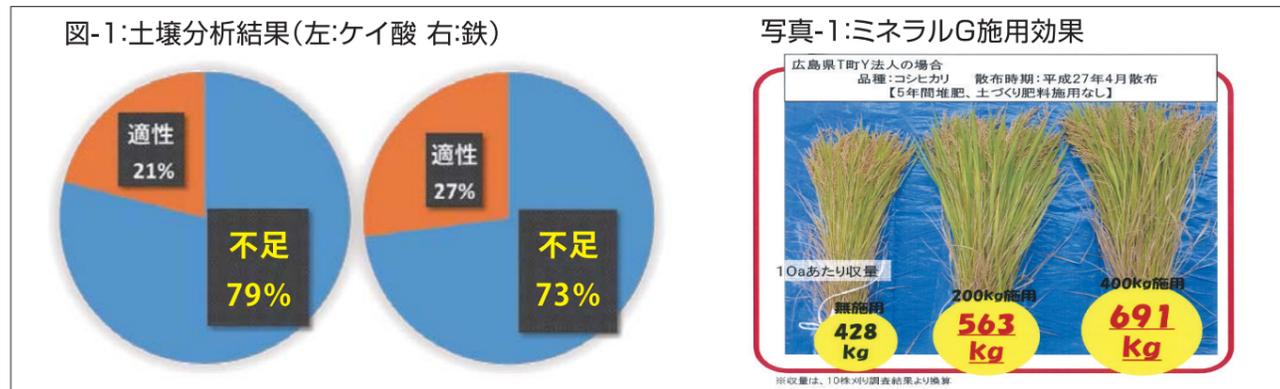
まず、「土づくり」には、堆肥などの投入による地力向上や「ミネラルG」などの投入による微量要素補給があります。水稻栽培においては「ケイ酸」「鉄」の成分が非常に重要で、収量や品質に与える影響が大きい成分として知られています。特に「ケイ酸」は水稻が求める割合が高く、1作栽培すると100~120kg/10a程度吸収され、**数年間補給しない状態が続くと収量への影響も現れます。**

本会の土壌分析結果(年間約10,000点分析)から数年間の傾向を見てみると、**ほとんどの圃場で不足傾向**にあることが確認されています。

こうした状況の中、収量と品質向上のための試験として県内多くのJA・地域で試験を実施いたしました。ほとんどの圃場で「収量が増えた」「米の質が良くなった」とコメントをいただきました。

収量を増やしたい方は、ミネラルG 200kg/10a散布をおすすめします。

(フレコン(200kg/袋)規格もあり、一定の条件を満たすと割引措置もあります。詳しくは、お近くのJAへご相談ください。)



次に「稲わら」ですが、稲わらにはケイ酸が多く含まれているため、**秋から春にかけてしっかり腐熟させると翌年の稲作へ役立ちます。**しかし、不十分な場合、田植後の「ガス湧」の原因につながりガス障害などにより根が傷み生育や収量に影響してきます。

従来の腐熟促進対策資材は「微生物」を活用するものが多く、「施用(散布)時期」が限られる場合が多くありましたが、**近年登場した「アグリ革命」**は酵素を主成分としているため使用時期を気にせず使用することができ、また、稲わらの分解能力も高いことが確認されています。

ミネラルGと混用散布(詳しくはJAの営農指導員にお尋ねください)も可能で収量などへ相乗効果も確認されています。

最後に「雑草対策」は、田植前後に除草剤を散布することが基本となりますが、増えすぎた雑草対策には、秋から春の対策も必要となります。

特に「ノビエ」や「クログワイ」などの雑草は、**一度増えると根絶するまでに時間を要するため早期の対策が必要です。**

ノビエ対策には圃場内に落ちた「種子」を年内に強制的に発芽させ枯殺させる方法や、翌年発芽させない方法があります。

クログワイ対策には、土中の塊茎増殖を抑制することで翌年の発生を少なくする対策があります。

具体的な方法をご紹介しますので、是非、ご活用ください。

② 具体的な対策方法

① 収量・品質向上対策

『アグリ革命アクア』+『ミネラルG(粉)』

【10aあたり】
アグリ革命アクア:100ml
ミネラルGフレコン(粉):200kg

・散布する5日前~3日前までにミネラルG(粉)フレコンにアグリ革命アクアを混用する。混用方法は、①水1.5ℓにアグリ革命アクア100mlを希釈する。②フレコン袋の上部を開き、製品の中心に少し窪みをつけ、その一点に全量注ぎフレコン袋の口を締める。

※毛細管現象によりフレコン袋内に広がりますのでご注意ください。
※混用して7日以上経過すると効果が下がることがありますのでご注意ください。

・ブロードキャスターで散布ください。

【省力混用散布】

詳細は、①、③を参照ください



② 雑草対策

1年生雑草(ノビエなど)対策:『プリグロックスL』

【10aあたり】

・水150ℓに薬剤1ℓを希釈してください。
・稲刈後から春耕起前までに使用が可能です。
※メーカー実施の試験結果では、薬剤がノビエの種子に付着することで、発芽を抑制する効果が確認されています。(次作の発芽種子量の抑制)
※種子が稲わらなどの下にある場合は、水量を増やししっかり散布してください。
・展着剤を加えてください。
・乗用管理機(ブームスプレーヤーなど)、動力噴霧器などで散布ください。

多年生雑草(クログワイなど)対策:『ラウンドアップマックスロード』

【10aあたり】

・水50ℓに薬剤1ℓを希釈してください。
・稲刈後の雑草生育期に使用が可能です。(稲刈後、発生した雑草に散布が可能です)
・特に多年生雑草(クログワイなど)については、薬剤の効果により塊茎の増殖を抑制します。(次作以降の発生量軽減)
・乗用管理機(ブームスプレーヤーなど)、動力噴霧器などで散布ください。

③ 稲わら腐熟+雑草対策

『アグリ革命アクア』+『プリグロックスL』

【10aあたり】

・水150ℓに薬剤プリグロックスL 1ℓとアグリ革命アクア100mlを希釈してください。
・希釈の順番は特にありません。
・展着剤を加えてください。
・乗用管理機(ブームスプレーヤーなど)、動力噴霧器などで散布ください。

『アグリ革命アクア』+『ラウンドアップマックスロード』

【10aあたり】

・水50ℓに薬剤ラウンドアップマックスロード 1ℓとアグリ革命アクア100mlを希釈してください。
・希釈の順番は特にありません。
・展着剤は不要です。
・乗用管理機(ブームスプレーヤーなど)、動力噴霧器などで散布ください。

プリグロックスL、ラウンドアップマックスロードには、お得な大型規格がありますので、ぜひご活用ください。

農薬名	規格	通常規格と比較した資材コスト低減率※
プリグロックスL	5L	約7%
ラウンドアップマックスロード	20L	約40%
	200L	約60%

※プリグロックスL:1L、ラウンドアップマックスロード500mlとの比較



〈お問合せ先〉 肥料農薬課 / 豊田: TEL.082-846-4705

農機情報

農業機械情報

① 夏期農業機械展示会について

開催日程

JA 佐伯中央	6月22日～23日
JA 呉	7月5日～6日
JA 庄原	7月5日～6日
JA 広島中央	7月12日～13日
(株)JA 農機広島サービス	7月19日～20日
JA 福山市	8月3日～4日

各地で「低コスト・省力化・新技術のご提案」をテーマに最新の農業機械を中心に展示・紹介しました。会場によっては、購入資金に関する相談や生産者の声を反映し機能を選び込んだ「共同購入トラクタ YT357JZUQH (60馬力)※チラシ①」、リモコン式草刈機を展示し来場者へアピールしました。

また、7月26日～27日には、JA全農ひろしま JA西日本営農技術センターで「広島県中古農機モデルフェア」を開催しました。中古農機258点が出品され多くの来場者で賑わいました。今後も皆さまのニーズにあった農業機械を提案させていただきます。



最新の農業機械を見学する来場者



レンタル機の展示

② JAグループ共同購入トラクタ(第2弾)の取り組みについて

共同購入トラクタYT357JZUQH(60馬力)に続く、第2弾として「中型トラクタ(28～35馬力)※チラシ②」の共同購入に取り組みます。全国1万人以上の生産者アンケートおよび生産者代表との意見交換をもとに必要な機能を厳選し、メーカーに開発要求しています。今後の事前申し込みの積み上げについて、ご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

③ 農作業安全について

(1) まずは「ワンチェック、ワンアクション」で農作業安全

毎年300件以上発生している農作業死亡事故を減少させるため、9～10月を重点期間として「秋の農作業安全確認運動※チラシ③」を展開しています。

一人ひとりの安全意識と仲間、家族、地域での「声かけ」をすることによって農作業事故を防ぐことができます。農作業を行う際には、安全への心がけをお願いします。

(2) 農業機械の事前点検について

日常的・定期的な点検・整備をすることで、農業機械の整備不良による重大な農作業事故を防ぐことができます。点検・整備はお近くのJA農機センターにお問い合わせください。※チラシ④

共同購入に賛同頂き有難う御座います！
生産者×JA 全国一万人の声を反映
共同購入トラクタ
誕生！
燃費 33%
60馬力
型式 YT357JZUQH
メーカー希望小売価格 534万円(税別)
JAグループ/全農

共同購入は、JAグループで生産者の需要をとりまとめ、全農が生産者の代理人として一括発注・仕入を行うことで、メーカーは製造・流通の効率化をはかり、生産者へ価格メリットを還元する取組みです。

県内では
三次市 2台
北広島町 1台
で導入済！

チラシ①

生産者&JA 全国1万人以上の声を反映して 機能を厳選
共同購入トラクタ
次は 中型 28・35馬カクラス
大型トラクタYT357JZは、全国から共同購入へ結集いただき、低価格を実現できました！
次は、中型トラクタの共同購入に向けて、全国1万人以上の生産者アンケートおよび生産者代表との意見交換をもとに必要な機能を厳選し、メーカーに開発要求しました。受付中の事前申込みの積み上げが、低価格実現の大きな力になります。
要求した主な機能
標準3P オートヒッチ 装着可能
前後進含めて ノークラッチ 変速
長時間作業 可能な 燃料タンク
自動水平 制御
自動耕深 制御
倍速ターン
バックアップ
オート ブレーキ
オプション設定有り
JAグループ/全農

令和2年2月まで 事前申込みの受付
令和2年7月以降 製造と価格のご案内
令和2年10月以降 出荷開始
ご注文いただいた日から納品まで、3-4ヶ月程度を要します。

共同購入は、JAグループで生産者の需要をとりまとめ、全農が生産者の代理人として一括発注・仕入を行うことで、メーカーの製造・流通の効率化をうながし、生産者へ価格メリットを還元する取組みです。

チラシ②

声かけ
点検・整備 OK!
ヘルメット&シートベルト
ワンチェック
ワンアクション
で農作業安全
2019年秋の農作業安全月間
JAグループ

チラシ③

農作業を安全に行うために
シーズン中のトラブル防止
農作業事故防止
シーズン前にJA農機センターで点検を行いましょう。
エンジンオイル 交換
ベルトチェーンの 点検・調整
刈刃の 点検・調整
カッター刃 点検・調整
脱輪部の 点検・調整
走行部の 点検・調整
おかしなと思ったら…農作業の安全のため、早めの点検・整備が必要です。
農作業事故を予防し、安心して農業機械をお使いいただくために
JA農機センターで、ぜひ点検を行ってください。
農機センターのことなら、JA農機センターにお任せください。
新3づくり運動展開中
納期(N)の笑顔(e)を見守りながら我々(わ)が協力します。
説明(わ)サービス(え)をお届けします。
人づく(ひと) 仕組づく(しぐ) 結集づく(けい)
農家の皆様とのコミュニケーションや情報提供の場所としてもご利用いただいております。どうぞお気軽にお越しください。

チラシ④

〈お問合せ先〉 農業機械課 / 国弘: TEL.0824-62-3103